

863
110

夜半楽

多永六丁酉



国立国会図書館 タイトル『夜半楽』 請求記号 863-110イ

ガラス使用

863-1101



目録

歌仙一卷

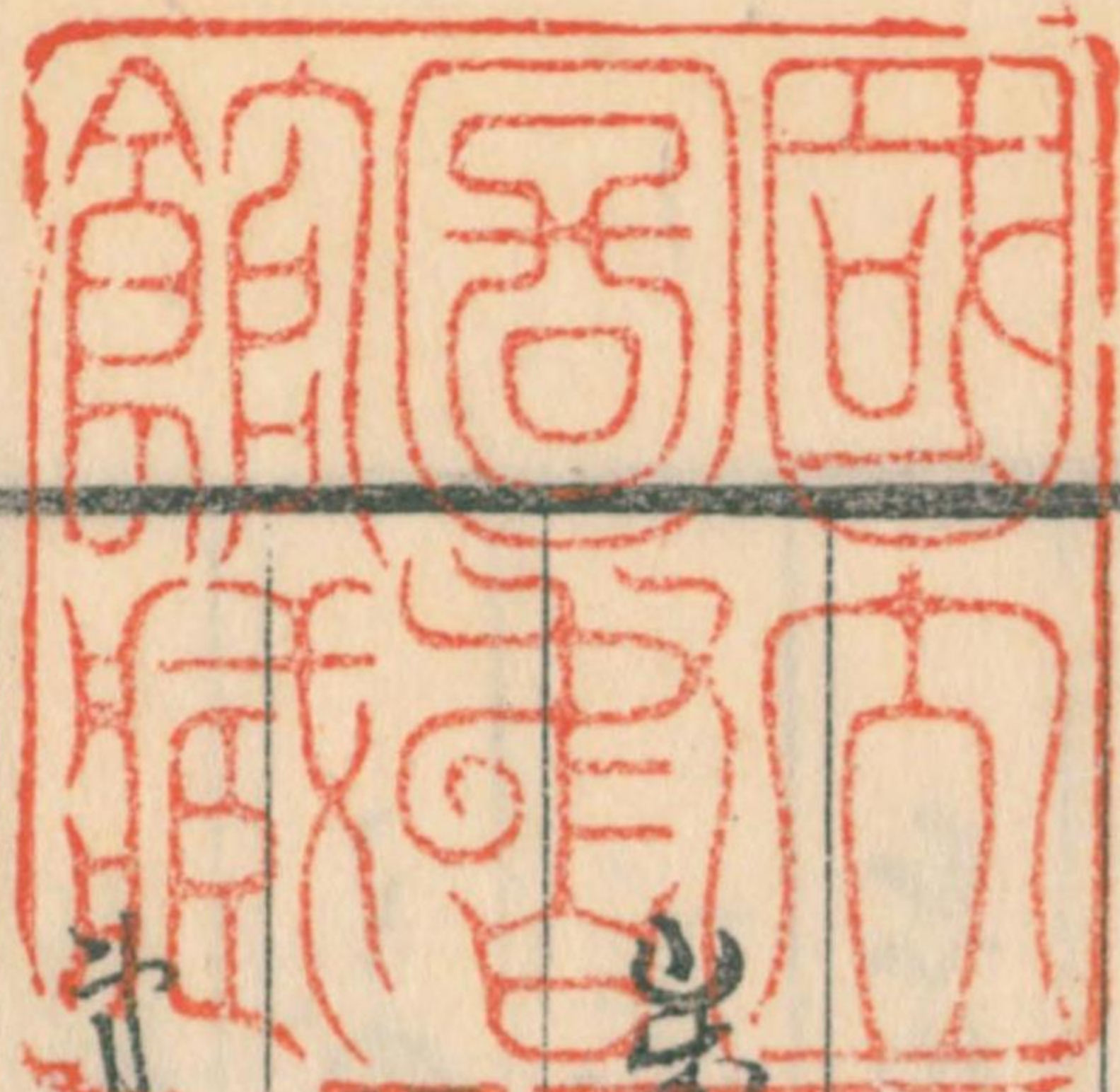
春興雜題 四十三首

春風馬埭曲 十八首

澱河歌 三首

老聾兒 一首





安永丁酉春 初會

菜豆を忘るる魚の俳諧所 蕪の
 陽と何者か節乃 飯常 月居
 舟のこいたうち段みく 月溪
 艇乃とのくくはくも 自笑
 十日の月せ出たり 百池
 鉄僧

祇園會する者ありあは
 不協秋風音律
 荏門のさびととくハ
 可避春興盛席

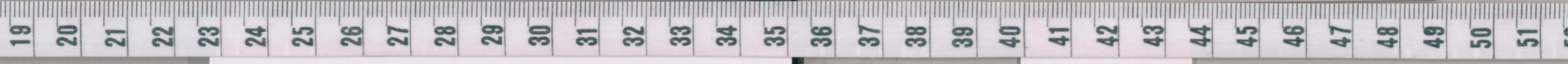
されとふの日乃俳諧を
 口説きなると言

くまめのいづるそと後二十年 吞柳
はままのなる園をさかしく 吞周
餅喫く扱も栖も帰るらく 柳女
錫とまじると銚と出る 延年
曉乃月くやくとあらし降 維駒
金山ちりぬ粟る白浪 樵風
はくしとせれと吉登の平四布 東瓦
酒を子腰を掛川る宿 左雀
空より怒れる蜂るあきく 乙総

岡初る畠らきくた也 霞夫
花の以三秀院の浪花人 儿董
都とを子住より春 大魯

春興

くまのいづるそと後二十年 吞柳
はままのなる園をさかしく 吞周
餅喫く扱も栖も帰るらく 柳女
錫とまじると銚と出る 延年
曉乃月くやくとあらし降 維駒
金山ちりぬ粟る白浪 樵風
はくしとせれと吉登の平四布 東瓦
酒を子腰を掛川る宿 左雀
空より怒れる蜂るあきく 乙総



めりあしう一里をきき流る子 田福
病ついで又痛き居るや春の西 維 駒

浪花

墨乃香や此物の奥誰うか 霞東
春風や繩を造り傀儡河、志度

あつらひたる彼岸子印中子 月居

剝松子隣れる柳可南 集馬

雪あふる古兵へ梅の花 自笑

里や春梅入る夕とあまらう 士川

敬馬浦

夕風や柳う下せ二日月、佳則

杜木屋の蓮翹更に黄なる穴 斗文

路斜 花を多るちや夕霞 菊 井

物さくや陶はく飯老々業 舎員

青柳や花あしる空のそらへ 嬰 夫

自由ある屋しき買たる梅の花 子 曳



二日さくしんけいよ今に遠さるる 柳女

日ぬ陸くや、瘦梅入花笑ぬ 賢瑞

一株の梅をくち植てらんと言とせよ 言員

らん梅乃白たみ春さる付く 鉄僧

深中る梅の月お竹の園 月溪

蓮初の花ちや蘭の葉もれみ 晋才

たぐも自ふ梅又もく乃香よあす 旧國

浪花

寺ま痛く起く梅乃自る 正名

春もや隣はらるる 飯 銀獅

遠里に人声あふるす 延年

くめを誰う袖リやとる梅 但出石

くいはや声引のそす古の先、霞夫



水乃春色さふ夜明子 香樹
 蝶くや若士乃暮子さくく 香周
 乃中川や夕くささくは處く 声こ
 くくくや葉目入傍子ささる常 徳野
 首のや若よく美戸入四さる一 文皮
 こくは若に枕くさくや若くは 舞閣
 黄くや樹くも気吹き若原 管鳥
 若宮子雀入さくする豊川外 春尔

舟は記かや月や江乃南 九湖
 比枝下く西坂本入梅の花 亀卿
 培く樹く入東や春れ南 乃容
 物咲く何やらものささくはつ 白砧

伊丹

草はくくく山吹や雉子乃夕 東尾

尾乃如乃若合言く

茶賣去く酒と妻来くを梅乃花 百池

黄也梅とと訪窗入人 大魯
白梅也吹几馴る朝 嵐 几董

謝蕙軒

余一日問孝老於長岡渡澗水
過馬堤偶逢女歸省鄉者先
後行數里相顧語容姿嬋娟
癡情可憐因製歌曲十八首
代女述意題曰春風馬堤曲

春風馬堤曲 十八首

- 夕入や浪花をゆる長柄川
- 妻見也堤長く家遠く
- 堤下摘芳草 荊与棘寒路
- 荊棘何妬情 裂裙且傷股
- 溪流石點 踏石振香芬
- 多謝水上石 教儂不沾裙
- 一飲乃茶也世如柳 老より季
- 茶店の老婆の儂を見く態藝子



○ 名を美を習し且儂々素衣を以美

○ 店中有二客 能解江南語

酒錢擲三緡 迎我讓榻去

○ 古跡之支那猫見書を呼書来り

○ 呼雛外鷄 雛外草滿地

○ 雛飛欲越雛 雛身墮三四

○ 喜妙跡三又中子捷徑ありふと下ふ

○ たぐひ花咲く三二五二五二を黄ひ

三二ハ白し記得を去年此跡より也

○ 悔ことる痛公甚短く一糸を混アセリ

○ じうしくきさうにたりの喜母る思

慈母乃懷袍別子妻あり

○ 春あり成長しく浪花の所

極ハ白し浪花極き財主乃家

善情をひひるる浪花凡流

○ 那を辞し才子負くあ三春

本心よりその末を取極木の物

○ 故て素深し行くて又行く

楊柳を堤を向くて是也

○ 矯首をくゞく見る故園なる黄昏

戸子倚る白髪の人才を抱きおぼ

竹春又春

○ 君不見古人太袷う

最入る病るやひとくは親の傍

激河歌 三首

○ 春水浮梅花 南流菟合激

錦纜君勿解 急瀬舟如電

○ 菟水合激水 交流如一身

舟中頼同寝 長る浪花人

○ 只と水上る梅のちとくは花水子

浮く去はと急かし

あゝ江頭る柳のふれし影もに

沈しきこととらるる

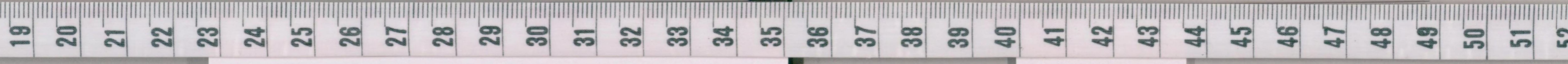
老嬰鬼

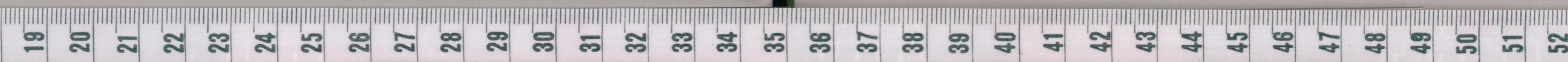
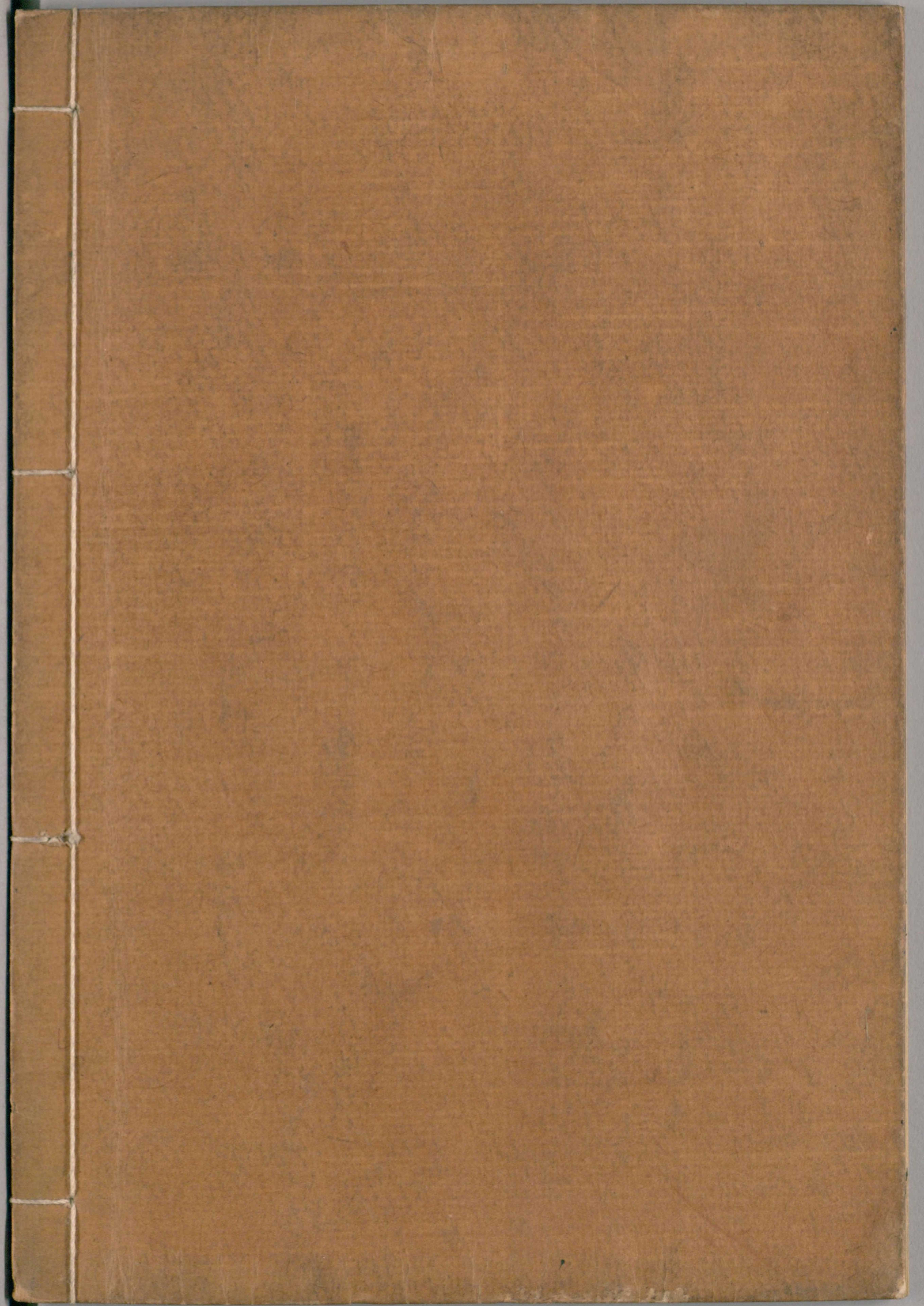
○ 春もやいあふくふとくはさうし声

田又庫
863
110

14137

安永丁酉春正月
宰鳥校
門人
橘仙堂板
平安書肆





国立国会図書館 タイトル『夜半楽』 請求記号 863-110イ

ガラス使用